所 報 2009. 1~12

2009年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

1. 機構及び人事

1. 定例所員総会

- (1) 第93回定例所員総会 2009年5月23日(土) 14:30~17:30 神田13A会議室 定例所員総会成立要件の確認(所員有効総数154名中、過半を超える出席25名+委任状77通で総会成立)、村上俊介所員(経)を議長に選出し、新所長の改選が行われ、町田俊彦所員が選出。(1)新所長の挨拶、前所長の挨拶、(2)新所員の委嘱について(3)2008年度事業報告、決算報告、(4)2009年度事業計画案、予算案、(5)その他を討議し、2008年度事業報告・決算報告、2009年度事業計画案・予算案が承認される。
- (2) 第94回定例所員総会 2009年11月28日(土) 14:30~17:30 生田社研会議室 定例所員総会成立要件の確認(所員有効総数162名中、過半を超える出席19名+委任状75通 で総会成立)、村上俊介所員(経)を議長に選出し、(1)2009年度活動報告 (2)2009年度事業計 画案 (3)2009年度会計報告・2010年度要求予算案 (4)その他を討議し、2009年度事業計画案、 2009年度会計報告・2010年度要求予算案が承認される

2. 所員の異動

(1) 所員の委嘱・解嘱

委嘱: 蔡イン錫(営)・伊藤萬里(経)・遠山浩(経)・鈴木奈穂美(経)・末次俊之(任期制助手、 法博士課程)・佐々木浩二(営)・奴田原健吾(経)・嶺井正也(営)

解嘱:内田 弘 (定年退職)・岡田和秀 (定年退職)・平尾光司 (定年退職)・黒瀬直宏 (退職)・ 服部あさこ (任期制助手終了)・荒井久夫 (任期制助手終了)・玄聖花 (任期制助手終了)・ 金光日 (任期制助手終了)

(2) 研究参与の委嘱・解嘱

委嘱:内田 弘·岡田和秀·平尾光司

解嘱:石渡貞雄研究参与は2009年1月10日にご逝去されたため研究参与を解嘱した。 佐藤博研究参与は2009年2月8日にご逝去されたため研究参与を解嘱した。 儀我壮一郎研究参与は2009年12月8日にご逝去されたため研究参与を解嘱した。

(3) 所外研究員の委嘱・

委嘱:黒瀬直宏・服部あさこ・濱賀祐子・姜徳洙・西角純志

(4) 特別研究員の委嘱・解嘱

委嘱:荒井久夫·玄聖花·金光日

解嘱:末次俊之(所員依嘱に伴い)・遠山浩(所員依嘱に伴い)

3. 運営委員、会計監査、事務局員の委嘱

2009年度事務局体制

事務局員 運営委員 所長 町田 俊彦(経) 事務局長 宮嵜 晃臣(経) 事務局長 宮嵜 晃臣(経) 財政 ○永島 剛(経) 財政 前事務局長 村上 俊介(経) 清水 真志(経) 原田 博夫(経) 研究会 ○田中 隆之(経) 白藤 博行(法) 兵頭 淳史(経) 研究会 池本 正純(営) 佐藤康一郎 (営) 研究会 大西 勝明 (商) 研究会 内藤 光博(法) 嶋根 克己(文) 編集 ○福島 利夫(経) 編集 前田 和實(商) 編集 内藤 光博(法)兼任 会計監查 永江 雅和(経) 大矢 根淳(文) 編集 文献資料 ○野部 公一(経) ホームページ 〇高萩栄一郎(商) ホームページ 吉田 雅明(経)

2. 研究調査活動

1. 定例研究会

現在、研究会開催は以下の通り。

(1) 4月25日(土) 14時00分~17時00分 神田校舎731教室

テーマ:自衛隊ソマリア派兵『海賊対処法』を考える

報告者:「基調報告」 半田 滋(東京新聞社会部記者)

「国際法の視点から」 藤本 俊明(神奈川大学非常勤講師)

「憲法の視点から 内藤 光博(所員、法)

司 会:コメンテータ: 筑紫 建彦 (けんぽう市民フォーラム)

共 催:けんぽう市民フォーラム

(2) 5月16日(土) 14時00分~17時00分 神田校舎782教室

テーマ:ドイツの「たたかう民主主義」と日本国憲法の民主主義

報告者:内田 雅敏 (弁護士) 「問題提起」

石村 修 所員(所員、法科大学院)「ドイツ基本法60年と『たたかう民主主義』」

内藤 光博 所員(所員、法) 「日本国憲法の民主主義」

司 会:古川 純 所員(所員、法)

共 催:NPO現代の理論・社会フォーラム

(3) 6月6日(土) 14時00分~17時00分 神田校舎733教室

テーマ:オーストラリア先住民族アボリジニを巡る状況とアイヌの今後

―オーストラリア調査旅行の報告を中心にして―

報告者: 寺地 五一(草の根先住民サポーター、映画「TOKYOアイヌ」製作委員会

星野 工(東京アイヌ協会会長)

司 会:古川 純(所員、法)

共 催:NPO現代の理論・社会フォーラム

(4) 6月13日(土) 14時00分~17時00分 神田校舎13A会議室

テーマ:衆議院の解散総選挙―『増補 解散の政治学―戦後日本政治史』をめぐって

報告者:藤本 一美(所員、法)

討 論:根本 俊雄(専修大学法学部非常勤講師)

濱賀 祐子 (所外研究員、明治学院大学法学部講師)

司 会:末次 俊之(所員、法学研究科)

共 催:日本臨床政治学研究会

(5) 7月7日(火) 15時30分~17時30分 生田社研会議室

テーマ: 堺市の現状

報告者: 柿原 利智(堺市東京事務所)

岩井 伸司 (堺市東京事務所)

司 会:佐藤康一郎(所員、経)

夏季実態調査 (9/8~10) の事前研究会

(6) 7月11日(土) 15時30分~18時00分 神田校舎772教室

テーマ:『「はだかの王様」の経済学』(松尾匡著、東洋経済)をめぐって

報告者:松尾 匡(立命館大学経済学部教授)

稲葉振一郎 (明治学院大学社会学部教授)

松井 暁(所員、経)

司 会:石塚 良次(所員、経)

(7) 7月18日(土) 15時00分~17時30分 神田校舎764教室

テーマ: 「帝人事件 | と検察ファッショー現代を歴史の文脈で考える

報告者:丸山 茂樹 (参加型システム研究所客員研究員)

古川 純(所員、法)

コメンテータ:朝日健太郎 (NPO現代の理論・社会フォーラム運営委員)

共 催:NPO現代の理論・社会フォーラム

(8) 7月21日(土) 16時30分~19時00分 サテライト教室B(向ヶ丘遊園駅前)にて公開研究会

テーマ: フランスと東アジア諸地域相互における近現代学芸の共同主観性に関する研究

報告者:土屋 昌明(所員、経済)「フランスと中国との相互的な共同主観性」

根岸 徹郎 (所員、法)

「日本におけるクローデル像 一大正末期の日本人はフランスから来た詩人大使

専修大学社会科学年報第44号

ポール・クローデルをどのように迎えたのか?」

共 催:特別研究助成「フランスと東アジア諸地域相互における近現代学芸の共同主観性に関する研究」

(9) 8月1日(土) 16時30分~19時00分 神田校舎772教室

テーマ:『金融危機にどう立ち向かうか』(田中隆之著、筑摩新書)をめぐって

報告者:田中 隆之(所員、経)

奴田原健悟 (所員、経)

野口 旭(所員、経)

司 会:石原 秀彦(所員、経)

(10) 12月1日(火) 15時00分~18時00分 生田社研会議室

テーマ:在中国日系自動車部品メーカの現地戦略―現地調査報告―

報告者:湯 進(みずほ銀行国際営業部)

司 会: 宮嵜 晃臣 (所員、経)

(11) 12月2日(水) 14時00分~17時00分 生田社研会議室

テーマ: アジア地域のイノベーションと開発協力

報告者:趙 佑鎮(多摩大学)

テーマ:現代世界原畜と「社会関係資本」

報告者:高橋 誠(所外研究員、法学部兼任講師)

コメンテータ:内田 弘(研究参与)

共 催:特別研究助成「東アジアの市民社会形成と人権・平和・共生」

(12) 12月5日(土) 13時00分~18時00分 神田校舎302教室

テーマ:アイヌ政策に関する有識者懇談会報告書の評価と今後の政策課題

報告者: 榎森 進(東北学院大学教授)

北海道アイヌ協会、首都圏アイヌ4団体

常本 照樹 (北海道大学教授)

コメンテータ:寺地 五一 (NPO現代の理論・社会フォーラム委員)

津田 仙好 (グループ"シサム"をめざして [首都圏])

他

司 会:古川 純(所員、法)、内藤光博(所員、法)

共 催:NPO現代の理論・社会フォーラム

グループ"シサム"をめざして「首都圏]

特別研究助成「東アジアの市民社会形成と人権・平和・共生」

(13) 12月12日(土) 14時00分~17時00分 神田校舎13A会議室

テーマ:オバマ政権をどう見るか―米国の政治・経済と軍事・外交課題―

報告者:泉 昌一(前桜美林大学教授)

討論者: 末次 俊之(所員、法学研究科任期制助手)

浅野 一弘(札幌大学)

司 会:藤本 一美(所員、法) 共 催:日本臨床政治学研究会

2. 特別研究会

毎年特別研究会として実態調査を夏および春の休暇中に実施している。その実態調査報告は月報 に掲載。

2008年度春季実態調査 3月14日(土)~20日(金)

15年前に社会科学研究所初の海外実態調査を行った韓国で実施 行 程

- 14日(土) 移動:羽田→金浦
- 15日(日) 統一展望台、独立記念館視察
- 16日(月) 韓国労働研究院訪問、金 薫氏からレクチャーを受け、意見交換、壇国大学社会 科学研究所訪問、合同研究会実施

第一セッション 高橋祐吉 (所員、経)、Prof. Kim Tae Gi 報告

第二セッション 宮嵜晃臣 (所員、経)、Prof. Shim Ji Hong 報告

第三セッション 水川 侑 (所員、経)、Prof. Lim Sang Hyuk 報告

- 17日(火) 全南大学 5.18研究所訪問、5.18研究所にて説明を受け、意見交換、5.18民主墓地、 5.18記念財団の見学及び懇談
- 18日(水) 現代自動車蔚山工場見学→釜山市
- 19日(木) 楊亭社(金型製造)訪問、人的資源研究院研究員からレクチャーを受け、意見交換
- 20日(金) 釜山 朝市見学、移動:釜山→成田

2009年度夏季実態調査 9月8日(火)~9月10日(木)

調査地:堺市、和歌山県紀ノ川市、泉佐野市

行 程

- 8日(火) 堺市役所にて堺市ものづくり支援課、産業政策課から説明を受け、意見交換。シャープ建設、堺臨海部73区見学。
- 9日(水) 堺伝統刃物製造「佐助」、堺HAMONOミュージアム、クボタ堺工場、堺市産業振 興センター、堺市伝統塩昆布製造販売郷田商店見学
- 10日(木) JA 紀の里、関紀産業、りんくうプレミアム・アウトレット見学

備考:7月7日(火)事前研究会実施。

『社研月報』(2010年2月号)で報告書を準備中

また今年度は社会科学研究所創立60周年にあたり、記念事業としてこの特別研究会の枠組みを使って3回の企画を実施。

専修大学社会科学年報第44号

第2回 檀国大学・専修大学合同研究会 一世界同時不況下の日韓経済・企業システム

2009年10月24日(土) 専修大学神田校舎6号館2階国際会議室

13:05~13:15 挨拶 町田俊彦 専修大学社会科学研究所長

コメンテータ:池本 正純(所員、経)

14:20~15:20 韓国企業の新しい跳躍:経営革新 — Posco と三星 SDI 事例を中心に—

····· Prof. Jong-Gon, Yang

コメンテータ:佐藤 康一郎 (所員、経)

15:40~16:40 米主導のグローバル資本主義の終焉と日本経済…… 宮嵜 晃臣 (所員、経)

コメンテータ: Prof. Jae-Hwa, Choi

16: : 45~17: 45 「日本的経営」の見直しと格差・貧困の諸相 …… 福島 利夫 (所員、経)

コメンテータ: Prof. Sang-Hyuk,Lim

*福島、宮嵜所員の論稿を中心に月報に掲載予定

専修大学社会科学研究所創立60周年記念公開シンポジウム 一今、なぜ『資本論』なのか?―

第1回『資本論』から現代を読む

2009年11月17日(火) 15:00~18:00 専修大学生田校舎7号館702教室

基調報告:的場昭弘(神奈川大学教授)

コメンテータ:清水真志(所員、経)、吉田雅明(所員、経)

司 会:村上俊介(所員、経)

*録音を起こしたものを月報に掲載予定

専修大学社会科学研究所創立60周年記念公開シンポジウム ─今、なぜ『資本論』なのか?─

第2回 今日の貧困と『資本論』

2009年12月16日 (水) 15:00~18:00 専修大学生田校舎1号館131教室

基調報告:伍賀一道(金沢大学教授)

コメンテータ:福島利夫 (所員、経)、宮嵜晃臣 (所員、経)

司 会:兵頭淳史(所員、経)

*録音を起こしたものを月報に掲載予定

3. 研究助成

☆グループ研究助成A(4名以上・年50万円3年間・1名以上論文発表義務)

今年度は次の4件(継続3件、新規1件)を助成した。(以下敬称略、所員は下線で表記)

継続 2007年度発足2件

(1)「中国主要都市の経済構造の分析 |

(町田俊彦〈責〉・宮嵜晃臣・福島利夫・大矢根淳・湯 進の5名)

(2)「変貌する日本経済の諸側面|

(宮本光晴〈責〉・原田博夫・山中尚・大倉正典・田中隆之の5名)

2008年度発足1件

(3)「『国家と宗教』問題の史的展開」

(堀江洋文〈責〉・村上俊介・砂山充子・仲川裕里の4名)

新規 (4)「日本と中国の経済発展モデルの比較研究」

(稲田十一〈責〉・大橋英夫・田中隆之・宮嵜晃臣の4名)

☆グループ研究助成B(2名以上・年20万円1年間・年度初め定例総会にて研究経過報告義務) 今年度は下記3件を助成した。

(1)「ニュージーランドにおける一院制議会の考察」

(藤本一美〈責〉・佐島直子の2名)

- (2)「福田会育児院史に関する基礎研究―二次史料類の収集と検討を中心に―」 (野口武悟〈責〉・宇都榮子の2名)
- (3)「日本型雇用システムの評価と展望に関する研究―歴史と法制度の視点から―」 (兵頭淳史〈責〉・永江雅和・有田謙司の3名)

☆特別研究助成(5名以上・年100万円3年間・助成終了後2年以内に「社会科学研究叢書」刊行 義務)

今年度は下記3件を助成した。

継続 2007年度発足

(1)「グローバル化時代の国際経済の諸問題」

(鈴木直次〈責〉・浅見和彦・泉留維・稲田十一・飯沼健子・大倉正典・大 橋英夫・加藤浩平・狐崎知己・小島直・常行敏夫・永島剛・野口旭・野部公 一・堀江洋文・室井義雄・毛利健三・伊藤萬里の18名)

2008年度発足

(2)「東アジアの市民社会形成と人権・平和・共生」 (<u>内藤光博〈責〉・白藤博行・古川純・石村修</u>・内田弘・<u>永島剛</u>・黒瀬直宏・神原理・小林守・高橋誠・大西勝明の11名)

新規 (3)「フランスと東アジア諸地域相互における近現代学芸の共同主観性に関する研究」 (鈴木健郎〈責〉・根岸徹郎・下澤和義・厳基珠・土屋昌明の5名)

3. 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

- (1) 1月(第547)号 「スペイン異端審問制度の史的展開と司法権の時代的・地域的特質」 ………… 堀江 洋文 (所員)
- (2) 2月(第548)号 「2008年夏季実態調査(燕市・新潟市)特集号」

専修大学社会科学年報第44号

		2008年夏季実態調査(燕市・新潟市)行程	村上	俊介	(所員)
		戦前における疎開と大河津分水の思い出	加藤寺	全三郎	(参与)
	中小企業の将来と地域社会 一燕市での調査に基づく中間的試論				
			北川	隆吉	(参与)
		燕産業集積の変遷と展望	宮嵜	晃臣	(所員)
		産地の一企業からみた燕の洋食器産業			
		—小林工業(LUCKY WOOD)のあゆみから	樋口	博美	(所員)
(3)	3月(第549)号	「晴耕雨読の暮らしが待っている ―定年退職を迎えて	—		
			内田	弘	(所員)
(4)	4月(第550)号	「協同労働と雇用社会」	内山	哲朗	(所員)
(5)	5月(第551)号	「戦前期大信託会社の金銭信託の性格」	麻島	昭一	(参与)
(6)	6月(第552)号	「北京・上海のハイテク産業クラスターの現状と課題」	湯	進	(所外)
(7)	7·8月(第553·5	554)号「韓国実態調査特集号」			
		2008年度春季実態調査	村上	俊介	(所員)
		不況下・韓国の労働問題と労働組合	柴田	弘捷	(所員)
		Work sharingの導入にあたり考慮すべき諸問題			
		―わが国についての若干の考察と見解―	飯田	謙一	(参与)
		日本ビール産業の現況	水川	侑	(所員)
		韓国再訪 一独立記念館と光州を訪ねて―	高橋	祐吉	(所員)
		光州における市民の抵抗権	村上	俊介	(所員)
		光州で石川啄木を語る	内田	弘	(所員)
		断想:2009年3月の韓国	儀我壮	上一郎	(参与)
		現代自動車のマーケティング	佐藤康	長一郎	(所員)
		釜山市の産業概要と地元研究所の役割機能	姜	徳洙	(所外)
	韓国の流通:釜山における複合商業施設と物流施設の開発について				
			田口	冬樹	(所員)
		「故郷」での違和感	森	宏	(参与)
(9)	9月(第555)号	「ルイ・ゴメス・デ・シルバと16世紀カスピージャ政治	機構」		
			堀江	洋文	(所員)
(10)	10月(第556)号	「アメリカIT産業のグローバル展開(1)			
		―東アジアを中心とする半導体産業の海外事業―」			
			鈴木	直次	(所員)
(11)	11月(第557)号	「アメリカIT産業のグローバル展開(2)			
		―東アジアを中心とする半導体産業の海外事業―」			
			鈴木	直次	(所員)
(12)	12月(第558)号	「平尾光司教授退職記念研究会記録」			

4. 『社会科学年報』第43号の刊行

「論文] (1) 西川 善介(元参与)「日本林業経済史論3 ─日本歴史と林業の見直し──」

- (2) 儀我壮一郎(参与) 「張作霖大元帥と日本」
- (3) 森 宏 (参与)・三枝義清・川口雅正

「年齢・世代と食料消費 一コウホート分析の経緯一」

- (4) 黒岩 俊郎 (参与) 「日本の産業遺跡をあるく 一日本技術史を求めて一」
- (5) 青木 純一 (所外) 「結核療養所反対運動と住民意識

一大正・昭和における公立療養所反対運動を比較して―|

- (6) 桑野 隆弘 (所外) 「国家の管理諸装置について」
- (7) 湯 進(所外) 「中国企業のイノベーションプロセス」

5. 「専修大学社会科学研究所叢書」刊行について

第11巻『中国社会の現状Ⅱ』が2009年3月27日に専修大学出版局より刊行された。

6. 研究所の運営

所員の総意のもとに、各所員の積極的な参加を活力にして、本研究所を民主的に運営し、社会諸 科学の総合的研究を推進していくために努力している。所員の意見・希望等に積極的に応えてい る。

7. その他の活動

1. 文献資料の収集

- (1) 社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの(辞書、統計、白書、年鑑等)の収集に 重点を置くという方針に基づいて、文献資料を収集した。
- (2) 年度当初から文献購入希望を募り、収集した。
- (3) 2006年度に終了した社研プロジェクト「中国社会研究」の一環として行ってきた中国経済・社会に 関する文献収集を中国研究に関わる研究グループ等と協力して継続した。また、2008年度韓国調査(2009年3月)においても収集してきた文献を加えて「東アジア文献」コーナーを設けた。

2. 文献資料の整理、配架

- (1) 文献資料の検索は「図書カード」によるものとして、収集した文献の整理を行った。
- (2) CD-ROM版の文献資料はロッカーに別途保管した。

3. 文献資料の公開

「文献ニュース」を社会科学研究所のホームページに掲げ、2008年度に収集した主な文献を中心 に新着情報を提供した。

4. ホームページの充実

(1) ホームページの充実

ホームページのさらなる充実をすすめてきた。論文を読みやすくするために、論文単位のファイル化、抄録の作成、問い合わせ先の追加などを検討し、月報・年報をホームページ上に公開(PDF)した。月報 547号(2009年1月号)~557号(2009年11月号)および、社会科学年報 43号。また定例研究会申請の電子化を進め、研究会等の案内と活動記録もホームページ上に公開した。

さらに2008年度に購入した主な文献資料をホームページ上に公開した。

(2) 電子メールの活用

電子メールを活用して、通信業務を効率化した。2007年度より開始した、所員に対する案内等の原則電子メール化を継続した。ただし、郵送の必要なもの(例:委任状など)や、電子メールに対応していない所員に対しては、引き続き郵送とした。

(3) コンピュータシステムの充実

社研神田分室のパソコンを更新した。ただし、インターネットとの接続が困難なので、現在まで接続されていない。その旨、あらかじめご理解の上、利用していただきたい。

- (4) CD-ROMの利用環境の整備
- (5) PCの維持管理、機能の充実を行った。